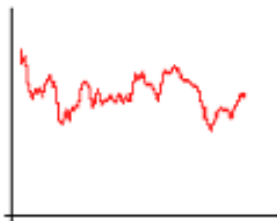


## 訴状（15頁－16頁）から抜粋 突然に崖からストーンと垂直に落下

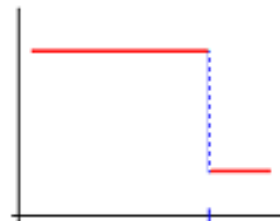
なお、本件第1事件前後のレジットの基準価額のグラフを他の証券会社の人などに見てもらうと「とてもあり得ないもので、こんなのは見たことがない」と言われる。なぜなら、1万円ほどの平らな状況の基準価額が平成15（2003）年11月から5年間ほど続いた後、本件第1事件の発生後に突然に崖からストーンと垂直に落とされたかのように、2925円に下落しているからである。通常の株価などの値動きは、数学的にも予測困難なランダムな動きをするものであり、自然のデコボコした“山の稜線”のような形になるのが普通である。ところが、このレジットの基準価額の値動きのグラフは、人為的な意図が大きく反映されているためであろう、まるで人工物の“下降階段”の一段分のように1から10分の3に真っ逆さまに下落していた。だから、長期にわたって証券会社に勤務する証券マンなども見たことがない形のグラフになったのだといえる。

縦軸に金融商品の価格、横軸に時間の経過をとると、次のグラフのような形になる。

金融商品の典型的な値動き



レジットの基準価額の値動き



本件第1事件